

紫陽花

今日も雨。その雨は、裏庭のアジサイを艶やかに彩っています。梅雨時に満開を迎えるアジサイですから、雨がよく似合います。ところが、アジサイは漢字で書くと“紫陽花”。どう読んでも“シヨウカ”としか読めません。雨の季節に太陽を意味する“陽”の字が使われます。不可思議です。調べてみると、中国の唐時代の詩人・白居易（はくきょい）が、あるお寺で目にした「紫色の香り高い花」に付けた名前が由来とされています。本来はアジサイとは違う別の花を指していましたが、平安時代の学者・源順（みなもとのしたごう）が日本のアジサイにこの漢字を当てはめたことで定着したそうなのです。太陽にはそんなに関係ないのですね。



雨に濡れる裏庭のアジサイ



17日からの3日間は、1学期末考査です。テストの雨、いいえ嵐となります。自らがどの程度まで到達することができたのか、試す機会です。1年生にとってみれば、初めての定期考査。教室には緊張が漂います。3時間目の休み時間、「できた!」と太陽のように輝く笑顔を見せる生徒、かたや「ぜんぜんできない」と雨模様の表情の生徒、明日の試験を「どう しょうか な」と右往左往する生徒と様々でした。

19日、日本カウンセラー協会の加勇田さんを筆頭に計5名の講師の皆様をお迎えして、1年生に『構成的グループエンカウンター』の講座を開催しました。構成的グループエンカウンターとは、あら



かじめ決められたエクササイズやルールに沿ってグループで活動し、率直な気持ちの共有を通じて本音の交流や感情交流ができる人間関係づくり援助するための体験学習法です。



“安心・安定なクラス”を目指します。生徒達は、仲間の知らなかった部分を発見しました。教員が「ああせい、こうせい!」と言わなくとも、自ら取組み、太陽のように輝く笑顔にあふれていました。

アジサイには、紫陽花という当て字の他に、日本語としての漢字があります。『集真藍』と書きます。「あづさあい」と読み、これが砕けて「アジサイ」となったようです。「集」（あづ）は集まる。「藍」（あい）は藍色。「真」（さ）は強調を意味する文法的な用語で、固有の意味はありません。“真っすぐ”とか“ど真ん中”とか、強調する時に“真”を使いますね。アジサイは、四枚の花弁のように見えるガクの中心に小さな花を形成しています。それらの小さな花が集まって、私たちの知る大きな花序を構成しています。ですから、藍色が集まると書くのも納得がいきます。

このグループエンカウンターを通して、集う仲間を思う気持ち、即ち“仲間愛”が更に深まったことでしょう。それは、

『集真愛』 あづさあい といいます。